

鳴上遺跡群 25

上  
郡

2001

高槻市教育委員会

# 嶋上遺跡群 25

## はしがき

平成12年度は、市内各所で数多くの重要な調査をおこないました。

嶋上郡衙跡では遺跡外辺部分の開発とともに調査が主でありました。特に注目されるものは芥川廃寺南西方の調査で土壙墓群の存在を新たに確認するなど郡衙の成立以前の状況を徐々にではありますが、あきらかにしつつあります。

悉塗寺跡では平安時代から中世にかけての遺物が出土し、寺域を探る手掛かりを得ることができました。

このほか、神内遺跡ではさまざまな時代の遺構・遺物がみつかっております。本年度の調査ではとくに弥生集落のひろがりが確認されました。広範な地域からもたらされた様々な出土品からは、淀川を介した一大流通拠点であったことがうかがえます。

史跡今城塚古墳におきましては、第4次規模確認調査を実施するとともに、古墳本来の規模や後世における形状の変化にかかる重要な知見をあらたに得ることができました。調査の成果は今城塚古墳の整備・公開に向け、貴重な資料として活用してゆきたいと思っております。

最後に、本書をまとめるにあたり、ご教示並びにご協力いただいた関係機関をはじめ、多くの方々に心から感謝申し上げます。

平成13年3月27日

高槻市教育委員会 文化財課

課長 富成哲也

## 例　　言

1. 本書は、高槻市教育委員会が平成12年度国庫補助事業として計画、実施した高槻市所在の史跡・山上郡衙跡附寺跡周辺部及び市内遺跡の発掘調査事業（総額5,000,000円）の概要報告書である。

2. 事業は、高槻市教育委員会の直営事業として実施し、大阪府教育委員会の助力を得て、平成12年5月9日着手、平成13年3月27日に終了した。

3. 調査は、高槻市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センターがおこなった。本書の執筆・図面作成・製図は、橋本久和 鍾ヶ江一朗、宮崎康雄、高橋公一、木曾 広がおこない、分担は文末に記した。遺構・遺物の写真撮影は清水良真が担当した。遺物整理については以下の各氏から援助をうけた。厚く感謝する。

荒井純子・池田理美・井上明子・白銀良子・高橋美喜子・梅靖代・西岡和江・堀亞紀・松本信子

(順不同・敬称略)

4. 査の実施にあたり、以下に掲げる土地所有者の方々をはじめ、関係機関各位のご協力をいただいた。ここに記して感謝いたします。

河村武信 五十嵐馨 山口幸弘 田上将也 白井光雄 早瀬戸正雄 浦島正 小林弘明 藤原由賀利  
松山晋介 深美智彦 深美恵 上原雅敏 渡辺徹 和田義伸 真野多佳夫 大森勲 古川哲史 中  
谷洋子 笠原庸史 笠原京子 近藤真道 鶴田照美 竹内早苗 義積呈 増田正志 内藤後一 小玉  
芳郎 成合春日神社建設委員会

(順不同・敬称略)

## 目 次

I 鳥上郡衙跡	1
II 土室遺跡	8
III 中城遺跡	9
IV 水室塚古墳	11
V 富田遺跡	13
VI 教行寺跡	15
VII 宮之川原遺跡	16
VIII 天神山遺跡	20
IX 神峰山寺跡	21
X 慕壇寺跡	22
XI 高槻城跡	24
XII 安満北遺跡	27
XIII 今城塚古墳規模確認調査	30
XIV まとめ	32

No.	遺跡名(地区)	調査地	面積(m <sup>2</sup> )	申請者
1	鳥上郡衙跡(6-A-B)	清福寺町879	269.77	河村武信
2	* (56-L)	川西町1丁目1015-8	61.01	早瀬戸正雄
3	* (56-P)	川西町1丁目1015-10	65.51	山口幸弘
4	* (57-A)	川西町1丁目1010-4	197.55	白井光雄
5	* (57-N)	川西町1丁目1015-9	59.22	五十嵐馨
6	* (74-B)	郡家新町156-33	48.15	田上裕也
7	* (74-D)	今城町164-49	77.35	浦島正
8	土室遺跡(2000-1)	上土室6丁目131-45-126-2	74.20	小林弘明
9	中城遺跡(2000-1)	昭和町2丁目144-2	132.98	藤原由賀里
10	* (2000-2)	昭和町2丁目144-1	148.77	松山晋介
11	水室塚古墳(2000-1)	水室町2丁目571-26	100.01	深美智彦・恵
12	* (2000-2)	水室町2丁目571-31	100.25	上川雅敏
13	富田遺跡(2000-1)	富田町4丁目2488	146.26	渡辺徹
14	教行寺跡(2000-1)	富田町6丁目2685の一部	120.11	和田義伸
15	宮之川原遺跡(2000-1)	宮之川原5丁目505-25	109.4	眞野多佳夫
16	* (2000-2)	宮之川原5丁目505-23	90.00	大森燕
17	* (2000-3)	宮之川原5丁目512-4	70.76	古川哲史
18	* (2000-4)	宮之川原元町1889-12	242.03	中谷洋子
19	天神山遺跡(2000-1)	天神2丁目9322-35の一部	122.45	笠原庸史・京子
20	神峰山寺跡(2000-1)	大字原3302	3089.23	神峰山寺代表役員近藤真道
21	慕壇寺跡(2000-1)	成合北の町1301	2741.94	成合春日神社建設委員会
22	高槻城跡(2000-1)	出丸町992-18の一部	49.65	飯田照美
23	* (2000-2)	出丸町992-18の一部	48.96	竹内早苗
24	* (2000-3)	野見町1251-15	122.45	義穂星
25	安満北遺跡(2000-1)	安満中の町472-1の一部	115.37	増田正志
26	* (2000-2)	安満中の町472-1の一部	115.43	内藤俊一
27	* (2000-3)	安満中の町494-24	84.00	小玉芳郎

平成12年度 市内遺跡調査一覧



## I. 島上郡衙跡

### 1. 島上郡衙跡（6-A・B地区）の調査

調査地は高槻市清福寺町879番地にあたり、小字は「大畠」である。当該地は市域を南北に貫く芥川の西岸に位置し、周辺では弥生時代～古墳時代の堅穴住居跡などの遺構を多数検出している。

調査は重機で盛土等を除去した後、人力で掘削・精査をおこなった。基本的な層序は表土(0.3 m)、盛土・整地土(0.5 ~ 0.7 m)、黄褐色砂礫〔地山〕である。地山は北から南へむかって下降し、調査区中央部から南は角度を強めて落ち込んでいた。この部分には暗褐色膠土と暗灰色膠土が堆積していた。遺構・遺物は検出されなかった。

(宮崎)

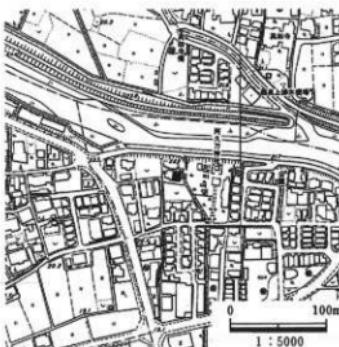


図1 島上郡衙跡（6-A・B）調査位置図

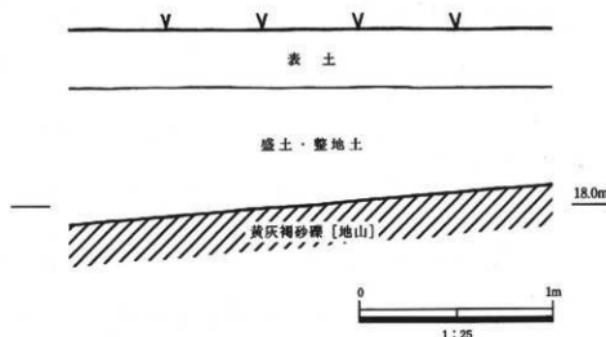


図2 島上郡衙跡（6-A・B）土層模式図

## 2. 鳥上郡衙跡（56-L 地区）の調査

調査地は高槻市川西町一丁目 1015—8 番地にあたり、小字名は「大井田」と称する。現状は宅地である。

このたび、個人住宅新築工事が計画されたため、発掘調査を実施した。当該地は史跡指定地の南側に位置し、西国街道の北側に隣接する。

調査は、重機で盛土等を除去した後、人力によって掘削及び精査をおこなった。層序は盛土(0.75 m)、灰白色砂質土(0.35 m)、黄灰色粘土〔地山〕である。今回の調査では、遺構・遺物は検出されなかった。  
（木曾）



図3 鳥上郡衙跡（56-L）調査位置図

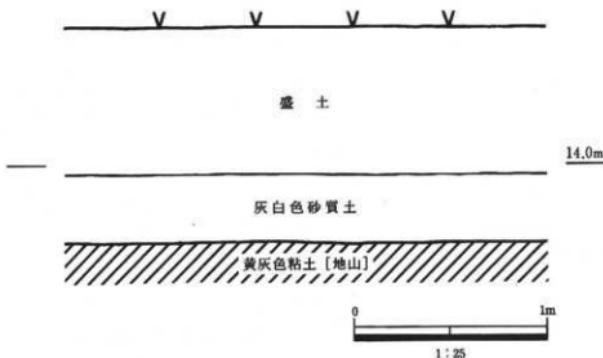


図4 鳥上郡衙跡（56-L）土層模式図

### 3. 鳴上郡衙跡（56-P 地区）の調査

調査地は、高槻市川西町一丁目 1015-10 番地にあたり、小字名は「大井田」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は 57-M 地区の西側に隣接し、もとは同一敷地内であった。

調査区を届出地西南部に設定し、重機で盛土を除去した後人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土(0.6m)、淡褐色土(0.3m)、黄灰色土〔地山〕である。隣接地でみられた灰色粘土はみられないが、基本的な層序は一致している。地山面を掘削した落ち込みがみられ、淡褐色土上部から掘り込まれた廃棄物処理用の落ち込みが調査区西側にみられる。

後述する 57-M 地区同様、遺構や遺物包含層などは検出されなかったが、地山は周辺部の調査で確認されるものであり、当該地区周辺が遺構・遺物が希薄であることが判る。（橋本）



図 5 鳴上郡衙跡（56-P）調査位置図

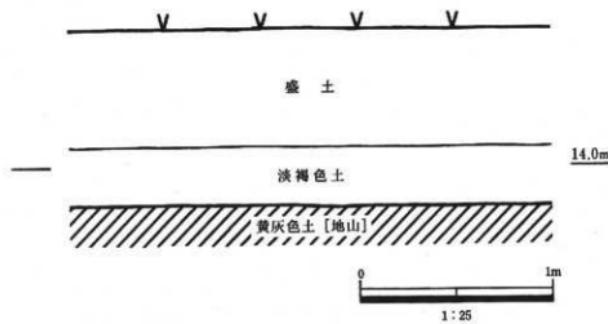


図 6 鳴上郡衙跡（56-P）土層模式図

#### 4. 鳥上郡衙跡（57-A地区）の調査

調査地は、高槻市川西町一丁目 1010-4 番地にあたり、小字名は「大井田」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。

当該地は史跡指定地の川西小学校プールに接し、南側を山陽道路が東西に横切ると想定されている。

調査区を届出地中央部に設定し、重機で盛土を除去した後、人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土（0.4m）、暗褐色土（0.3m）、旧耕作土（0.1m）、床土（0.1m）、褐色土（0.1m）、黄褐色礫混じり土〔地山〕である。暗褐色土には弥生土器の細片などが混入しており、当該地が宅地造成された時に整地土として用いた土壤が周辺部の遺物包含層であったためとみられる。褐色土には須恵器などの細片がみられ、この層を除去すると地山となる。調査区の東部で約 0.1 m の深さに掘削された落ち込みを検出した。ほほ南北方向を示しているが、調査区外に統くため時期や規模など詳細は不明である。

今回の調査では、史跡指定地付近から北側で礫混じりの黄褐色土が地山となり、遺物包含層及び遺構の存在を確認することができた。しかし、56-P 地区、57-M 地区の調査では遺構・遺物が検出されておらず、郡衙関連遺構の拡がりの南限に近いことが想定される。（橋本）



図 7 鳥上郡衙跡（57-A）調査位置図

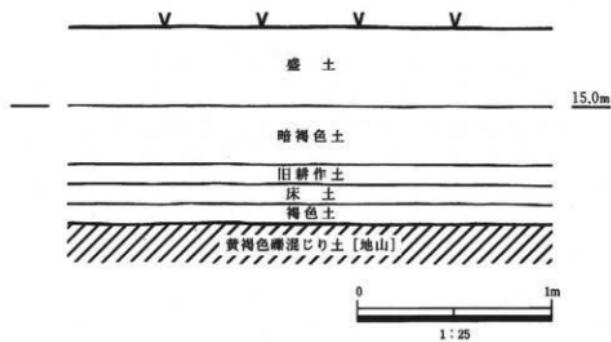


図 8 鳥上郡衙跡（57-A）土層模式図

## 5. 鳴上郡衙跡（57-M地区）の調査

調査地は、高槻市川西町一丁目 1015-9 番地にあたり、小字名は「大井田」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は鳴上郡衙跡の南部に所在し、現在の西国街道に面している。山陽道路は当該地のすぐ北側を通過するものとみられる。これまで実施された周辺部の調査では、遺構・遺物の検出は比較的小ない。

調査区を届出地南東部に設定し、重機で盛土を除去した後人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土（0.3 m）、灰色粘土（0.2 m）、淡褐色土（0.4 m）、黄灰色土〔地山〕である。地山面では深さ約 0.2 m の落ち込みを調査区北側で検出したが、西壁の土層を観察すると、灰色粘土上部から掘削され、埋土の黒灰色土には現代の廃棄物が混じる。また、淡褐色土にも廃棄物が認められるため廃棄物処理のためしばしば地面を掘削したものとみられる。

遺物包含層は確認されず、遺構も検出されなかった。

(橋本)



図9 鳴上郡衙跡(57-M) 調査位置図

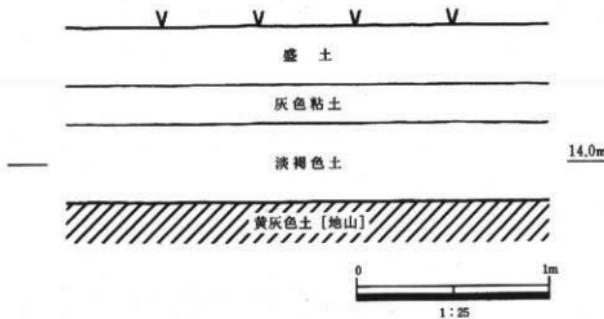


図10 鳴上郡衙跡(57-M) 土層模式図

## 6. 鳥上郡衙跡（74-B地区）の調査

調査地は高槻市郡家新町156—33番地にあたり、小字は「川西北浦」である。現状は宅地である。当該地は古墳時代の墓域となっており、周辺では古墳や土壙墓などの遺構を検出している。

調査は個人住宅建設に先立って実施したもので、まず重機で盛土等を除去したのち、人力で掘削・精査をおこなった。基本的な層序は盛土・整地土(0.7m)、淡黄褐色粘土(0.1m)、淡灰色砂質土(0.3m)、淡黄褐色土～青灰色砂〔地山〕である。遺構・遺物は検出されなかった。

(宮崎)



図11 鳥上郡衙跡（74-B）調査位置図

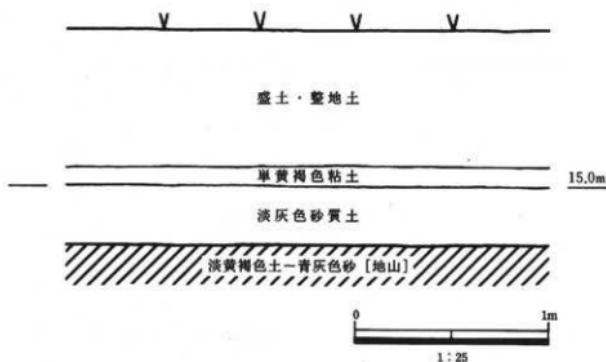


図12 鳥上郡衙跡（74-B）土層模式図

## 7. 鳴上郡衙跡（74-D 地区）の調査

調査地は、高槻市今城町 164-49 番地にあたり、小字名は「中久保」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は鳴上郡衙跡西南部にあたり、西方には郡家今城遺跡が存在する。これまでの周辺部での調査では、遺構・遺物が比較的希薄な地域であった。

調査区を届出地中央部に設定し、重機で盛土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土（1.0 m）、碎石層である。碎石は当該地が宅地造成された昭和 40 年代に軟弱地盤を改良するために埋め立てたもので、約 1 m を掘削したが湧水が激しく、地山面を検出することができなかった。また遺物も検出されなかった。



図13 鳴上郡衙跡 (74-D) 調査位置図

(橋本)

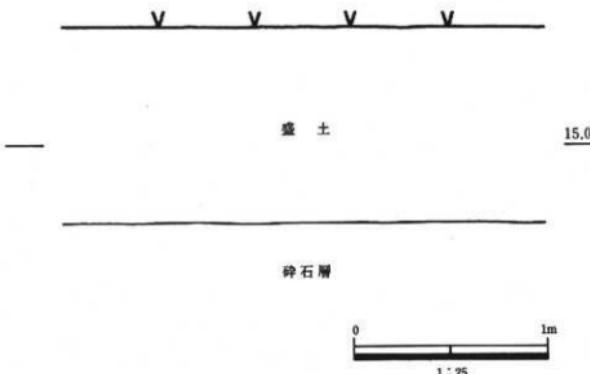


図14 鳴上郡衙跡 (74-D) 土層模式図

## II. 土室遺跡

### 8. 土室遺跡（2000-1 地区）の調査

調査地は高槻市上土室六丁目 131-45、126-2

番地にあたり、小字名は「石コカシ」と称する。

現状は宅地である。調査は個人住宅の建て替えに先立って実施するもので、重機による盛土等の除去後、人力で掘削作業を行い遺構・遺物の検出に努めた。層序は盛土・整地土(1.35 m)、旧耕作土・床土(0.25 m)、暗灰色粘土(0.1 m)、淡黄灰色粘土〔地山〕である。

今回の調査では遺構・遺物こそ検出されなかったものの、暗灰色粘土の状況は北方で検出した奈良・平安時代の集落で検出した遺物包含層とは一連のものと考えられ、周辺には何らかの遺構が広がる可能性が指摘できる。（宮崎）



図15 土室遺跡 (2000-1) 調査位置図

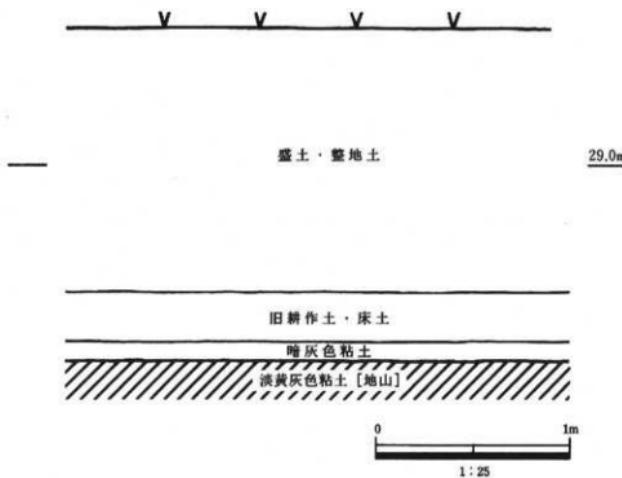


図16 土室遺跡 (2000-1) 土層模式図

### III. 中城遺跡

#### 9. 中城遺跡（2000-1地区）の調査

調査地は、高槻市昭和台二丁目144-2番地にあたり、小字名は「安房」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は富田台地上に位置する中城遺跡の南部にあたり、南には慶瑞寺が存在する。これまでの周辺部での調査では弥生土器や中世土器などが出土しているが、明確な遺構は知られていない。

調査区を届出地中央部に設定し、重機で盛土を除去した後人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土(0.2m)、暗褐色土(0.2m)、黄色砂礫(0.4m)、廃材である。暗褐色土には弥生土器の細片が混入しており、当該地の造成工事で周辺部の遺物包含層が掘削されたものが盛土に使用されたものとみられる。黄色砂礫にはコンクリートブロックが含まれている。廃材は約1mを掘削したが地山を検出することができず、造成時に相当搅乱された結果とみられる。

(橋本)



図17 中城遺跡（2000-1）調査位置図

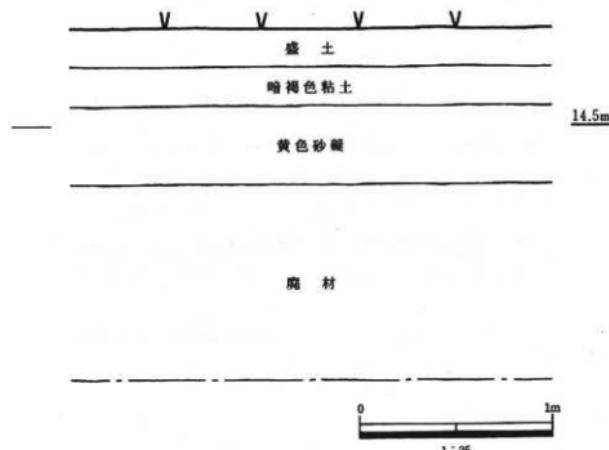


図18 中城遺跡（2000-1）土層模式図

## 10. 中城遺跡（2000-2 地区）の調査

調査地は、高槻市昭和台二丁目144-1番地にあたり、小字名は「安房」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は富田台地上に位置する中城遺跡の南部にあたり、南には慶瑞寺が存在する。2000-1地区の西側に位置し、本来は同一敷地であった。

調査区を届出地南西部に設定し、重機で盛土を除去した後、人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土(0.3m)、暗灰色土(0.2m)、黄褐色土【地山】である。

隣接地の調査では明確な地山面を検出することができなかったが、当該地では現地表面から数十cmで地山面となることが確認できた。遺構・遺物は確認できなかったが、隣接地の盛土から弥生土器がわずかではあるが出土しており、周辺部の調査については注意を要する。



図19 中城遺跡（2000-2）調査位置図

(橋本)

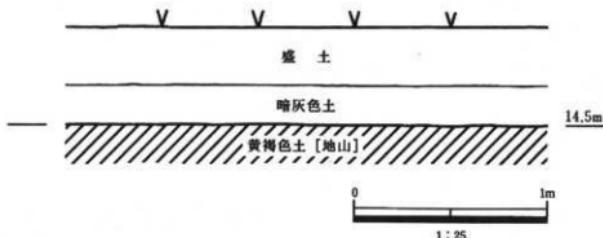


図20 中城遺跡（2000-2）土層模式図

## IV. 氷室塚古墳

### 11. 氷室塚古墳（2000-1地区）の調査

調査地は、高槻市氷室町二丁目571-26番地にあたり、小字名は「塚後」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は氷室塚古墳の北東部に位置、旧状は池であり、埋め立てられた後、ごく最近まで会社の寮が建っていた。

調査区を届出地中央部に設定し、重機で盛土を除去した後、人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土（1.0m）、埋め立て土である。いずれも鉄筋などの建築廃材が混じり、既存建物の解体及びそれ以前の池の埋め立て時に、軟弱地盤を改良するため多量の廃材が使用されたものとおもわれる。埋め立て土等の廃材のため、調査区の壁面が崩壊する危険があり調査を終了したが、古墳に関連する遺物などは検出されなかった。

（橋本）



図21 氷室塚古墳（2000-1）調査位置図

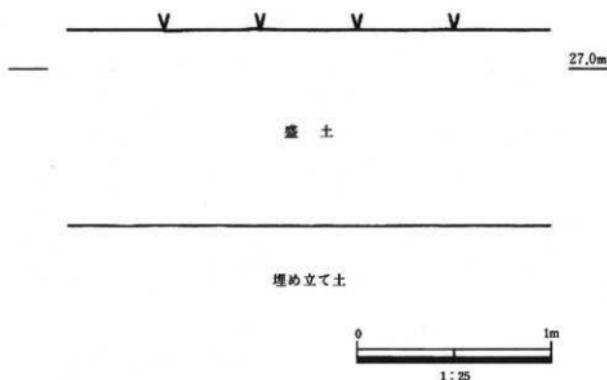


図22 氷室塚古墳（2000-1）土層模式図

## 12. 氷室塚古墳（2000-2 地区）の調査

調査地は、高槻市氷室町二丁目 571-31 番地にあたり、小字名は「塚後」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は氷室塚古墳の北東部、2000-1 地区の東側にあたり、同地区とは同一敷地内であった。

調査区を届出地中央部に設定し、重機で盛土を除去した後、人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土（1.0 m）、埋め立て土である。2000-1 地区同様、埋め立て土にはいずれも建築廃材や鉄筋などが多量に混じり、古墳に関連する遺構・遺物は検出することができなかった。多量の廃材等のため、調査区の壁が崩壊する危険性もあり調査を終了した。

(橋本)



図23 氷室塚古墳（2000-1）調査位置図

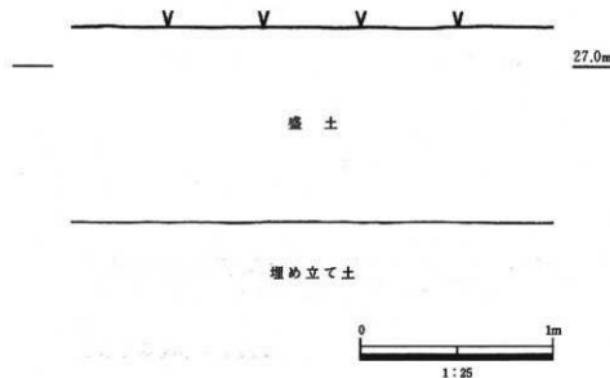


図24 氷室塚古墳（2000-2）土層模式図

## V. 富田遺跡

### 13. 富田遺跡（2000-1 地区）の調査

調査地は高槻市富田町四丁目 2488 番地にあたり、小字は「馬場岡町」と称する。現状は宅地である。今回の調査は個人住宅の建替に先立つものである。

調査は、重機により盛土等を除去したのち、人力により掘り下げて遺構・遺物の検出に努めた。基本的な層序は盛土(0.5m)、暗黄褐色土(整地土: 0.2 ~ 0.4 m)、暗褐色土(包含層 I : 0.15 ~ 0.2 m)、黄褐色ブロック土混じり暗褐色土(包含層 II : 0.1 ~ 0.25 m) 黄褐色砂質土【地山】である。地山は南側から北側へむかって下降していた。

検出した遺構は溝 1 条である。包含層 I を切り込んで掘削した東西溝で、斜面に直交する位置関係にある。断面の形状は逆台形を呈し、埋土は黒灰色砂質土層である。幅 0.8 m、深さ 0.3 m をはかる。

遺物は、包含層 I より須恵器、包含層 II から土師器・須恵器が出土した。いずれも微量な小片であり、時期等は明確ではない。

(高橋)



図25 富田遺跡（2000-1）調査位置図

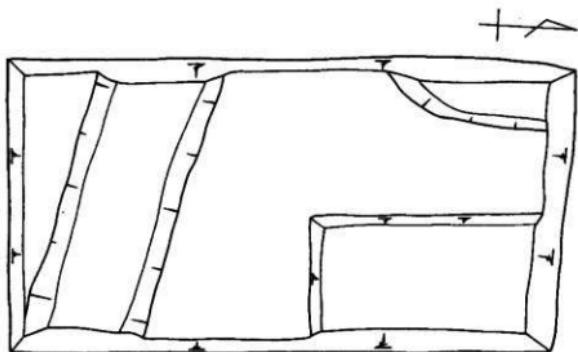
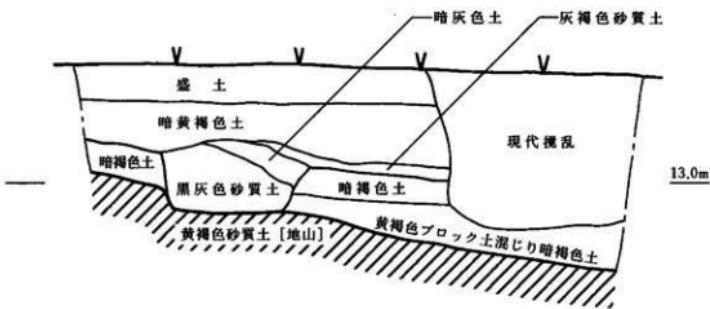


図26 富田遺跡（2000-1）平面図・土層図

## VII. 教行寺跡

### 14. 教行寺跡（2000-1 地区）の調査

調査地は、高槻市富田町六丁目 2685 番地の一部にあたり、小字名は「西ノ町」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は富田台地の南側縁辺部にあたり、東側には室町時代に真宗本願寺教団が北摂布教の拠点とした教行寺が位置している。

調査区を届出地中央部に設定し、重機で盛土を除去した後、人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛上(1.0 m)、黄褐色礫〔地山〕である。教行寺は天文元(1532)年に細川晴元配下の摂州武士団に焼かれた記録があり、昭和57年に実施した教行寺北隣の調査では、焼土や土師器皿などが出土している。今回の調査では富田台地縁辺部であることを示すような地山の礫は確認できたが、寺院に関連する遺構・遺物はまったく確認されなかった。(橋本)



図27 教行寺跡 (2000-1) 調査位置図

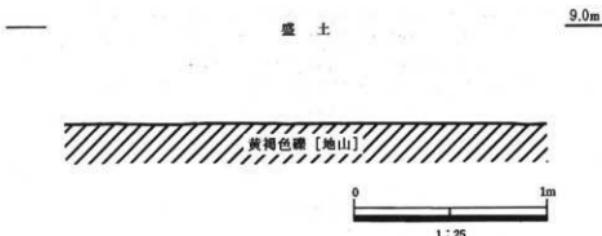


図28 教行寺跡 (2000-1) 土層模式図

## VII. 宮之川原遺跡

### 15. 宮之川原遺跡（2000—1 地区）の調査

調査地は高槻市宮之川原5丁目505—25番地にあたり、小字名は「大明神」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は宮之川原遺跡の東南部に位置する。

調査区を届出地内に設定し、重機で盛土、旧耕作土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土（0.8 m）、旧耕作土（0.1 m）、床土（0.15 m）、淡白色砂質土（遺物包含層：0.1 m）、淡黄灰色砂質土（遺物包含層：0.3 m）、灰褐色粗砂（〔遺物包含層：0.65 m〕、灰褐色砂礫〔地山〕である。

今回の調査では遺構は検出せず、遺物については包含層から6世紀代の土師器・須恵器の小片わずかに出土している。いずれも摩耗が著しいことから、この遺物包含層は宮之川原遺跡一帯で検出される河川堆積層であると考えられる。

（高橋）



図29 宮之川原遺跡（2000—1）調査位置図

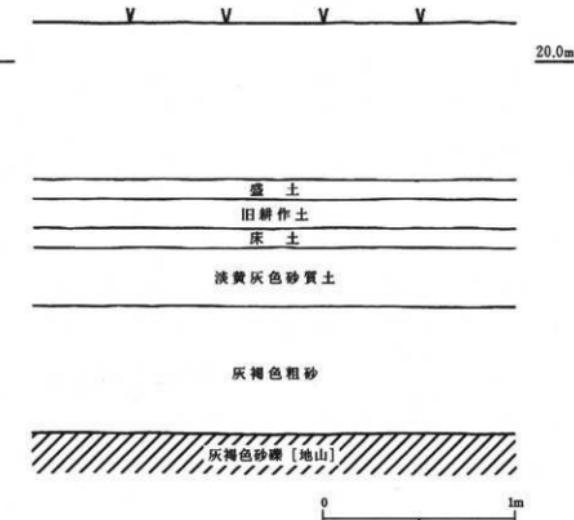


図30 宮之川原遺跡（2000—1）土層模式図

## 16. 宮之川原遺跡（2000—2 地区）の調査

調査地は高槻市宮之川原五丁目505—25番地にあたり、小字名は「大明神」である。現状は宅地である。今回の調査は個人住宅の建設に先立つものである。

調査は重機で盛土等を除去したのち、人力によって掘削して遺構・遺物の検出に努めた。

層序は盛土（0.5 m）、旧耕作土（0.2 m）、暗青灰色土（整地土：0.2 m）、暗褐色礫土（包含層：0.5 m）、暗青灰色土〔地山〕である。地山はほぼ水平である。

調査の結果、遺構は検出されなかった。包含層には土師器の微細片がわずかに含まれるが、検出状況からみる限り二次的に堆積したものと考えられる。



(宮崎)

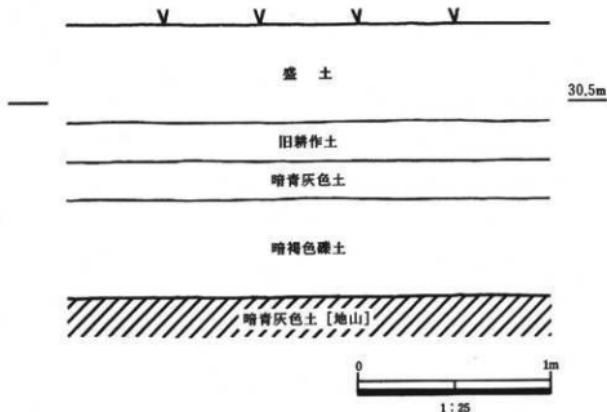


図32 宮之川原遺跡（2000—2）土層模式図

## 17. 宮之川原遺跡（2000—3 地区）の調査

調査地は高槻市宮之川原五丁目 512—4 番地にあたり、小字名は「大明神」である。現状は宅地である。今回の調査は個人住宅の建替えに先立つものである。

調査は重機で盛土等を除去したのち、人力によって掘削して遺構・遺物の検出に努めた。

基本的な層序は盛土（0.7 m）、旧耕作土（0.2 m）、暗青灰色土（整地層：0.2 m）、暗褐色土（0.6 m）、黄褐色土〔地山〕である。地山はほぼ水平である。

調査の結果、遺構・遺物は検出されなかつた。

（宮崎）



図33 宮之川原遺跡（2000-3）調査位置図

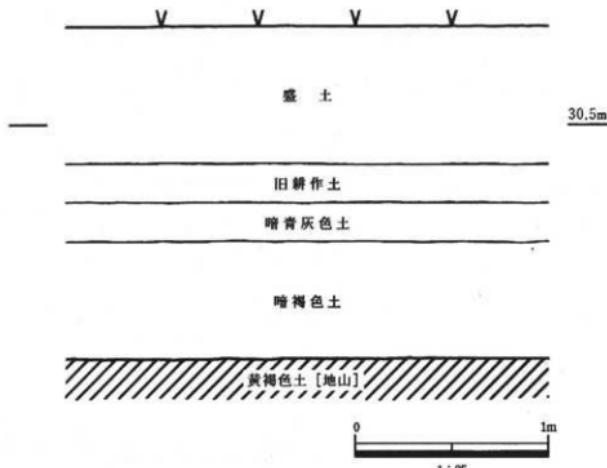


図34 宮之川原遺跡（2000-3）土層模式図

## 18. 宮之川原遺跡（2000-4 地区）の調査

調査地は高槻市宮之川原元町889—12番地にあたり、式内神服神社の西側に隣接する。小字名は「宮ヶ市」であり、現状は宅地である。今回の調査は個人住宅の建替えに先立つものである。

調査は重機で盛土等を除去したのちに人力によって掘削し、遺構・遺物の検出に努めた。基本的な層序は表土・整地土（0.3m）、暗褐色土（0.7m）、黄灰色土（0.1m）、淡黄灰色砂礫土（0.2m）、褐色土（0.4m）黄褐色粘土〔地山〕である。地山はほぼ水平である。

調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。

(宮崎)



図35 宮之川原遺跡（2000-4）調査位置図

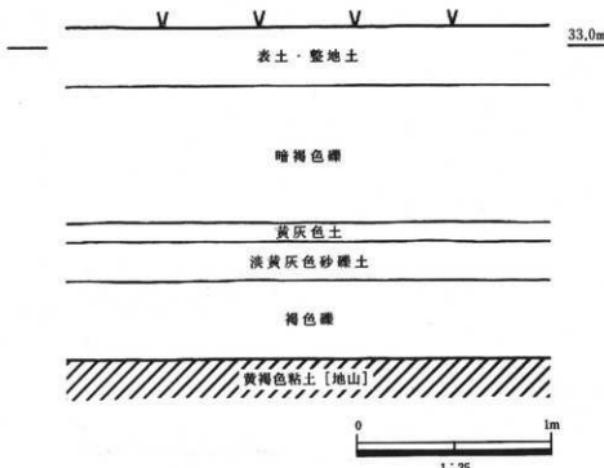


図36 宮之川原遺跡（2000-4）土層模式図

## VII. 天神山遺跡

### 19. 天神山遺跡（2000-1 地区）の調査

天神山二丁目932-35番地の一部にあたり、小字名は「東山」と称する。調査地は天神山遺跡の西側尾根東斜面をヒナ壇状に造成した開発地の一画で、現状は宅地である。このたび個人住宅建築工事に先立って発掘調査を実施した。

調査は、届出地の北側と南側の2か所にトレーニチを設定、重機で掘削したち人力で精査して、層序の観察と遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果、北トレーニチでは整地土（0.75 m以下）で淡黄灰色粘土及び淡褐色砂礫の地山、南トレーニチでは整地土（0.25 m以下）で黄灰色粘土の地山となり、遺物包含層及び遺構は検出されなかった。整地土には地山由来の粘土塊を多く含み、風化のすんだ弥生土器の細片がごく少量混入しているのを認めた。

当該地は天神山遺跡の西部に位置し、包含層や遺構の存在も予想されたが、宅地造成のさい遺物包含層・遺構とともに削平されたものと判断された。

（鎌ヶ江）



図37 天神山遺跡（2000-1）調査位置図

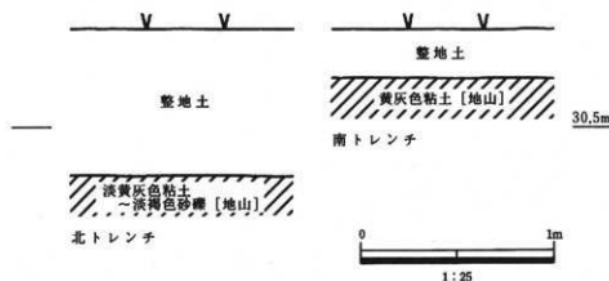


図38 天神山遺跡（2000-1）土層模式図

## IX. 神峰山寺跡

### 20. 神峰山寺跡（2000-1 地区）の調査

調査地は、高槻市大字原 3302 番地にあたり、小字名は「神谷」と称する。現状は寺院境内地である。庫裏付寺院建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は高槻市北部、原の山間部に立地し、天武天皇 7(679) 年頃に役の行者が開いたという山岳寺院である。宝亀年間（770 年代）に、光仁天皇の子、開成皇子が箕面の勝尾寺から入山して創建、全盛期には数多くの僧坊があった。現在は本坊の他、2 子院となっており、その 1 子院である龍光院が改築されることになった。

調査区を届出地中央部に設定し、重機で盛土を除去した後、人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土（0.5 m）、淡褐色土（0.1 m）、黄灰色土〔地山〕である。地山は岩盤に近く、堅く締まっている。淡褐色土から現在の瓦などが出土したが、寺院に関連する遺構・遺物は検出されなかった。

(橋本)



図39 神峰山寺跡（2000-1）調査位置図

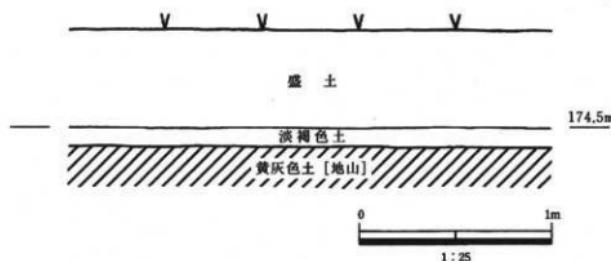


図40 神峰山寺跡（2000-1）土層模式図

## X. 悉壇寺跡

### 21. 悉壇寺跡（2000-1 地区）の調査

調査地は成合北の町 1301 番地にあたり、小字名は「宮浦」と称する。現状は成合・春日神社の境内地であり、このたび神社の本殿、幣殿・拝殿及び参集所の建て替えが計画されたため、事前に発掘調査を実施した。

成合・春日神社は、南北に長い菱形を呈する成合盆地の北東縁に位置する。境内は東西に長い矩形を呈し、中央西寄りに東面して本殿と幣殿・拝殿、対面して参集所が配され、境内東南隅に南北方向の参道が取りついている。そのため調査は、本殿・拝殿については東西方向に長さ約 14 m × 幅 2.5 m (トレンチ 1)、参集所については南北方向に長さ 8.5 m × 幅 2.5 m (同 2) のトレンチを設定し、重機で排土のち人力で掘削して遺構・遺物の精査に努めた。

トレンチ 1 の基本層序は淡褐色礫土 (0.25 m)、淡褐色土 (0.1 m)、明黄褐色砂質土 (0.1 m)、淡褐色礫土 (0.2 m)、暗褐色土 (0.3 m)、淡褐色礫土 (0.3 ~ 0.5 m) [以上整地土]、人頭大蝶混じり明褐色礫土 [地山] である。地山面の標高は 40.0 m ~ 39.8 m をはかり、西から東へ緩やかに傾斜している。整地土には若干の遺物が混入しており、とりわけ明黄褐色砂質土層から多く出土した。弥生後期の臺底部や縄目のある平瓦、瓦器片、近世の土師皿・瓦片など、量的には少ないものの各時代の遺物が含まれている。明確に遺構と判断されるものは認められなかった。

トレンチ 2 の基本層序は表土 (0.05 m)、淡褐色土 (0.25 ~ 0.3 m) [整地土、南側の一部]、淡茶灰色礫土 [地山] となる。整地土から須恵器杯身のほか、土師器片・瓦器片それぞれ少量が出土したが、遺構は認められなかった。

悉壇寺は、「三代実録」貞觀 16(874)年 12 月条に記載のある市内でも数少ない古代寺院の一つである。今回の調査では寺院に直接関わる遺構は検出されなかったが、平瓦片など当該期を含む各時代の遺物が検出された。今後の調査が期されるところである。

なお市域では、本殿が東面する神社はこの成合・春日神社の他は郡家の神郡社(芥川庵寺跡)と津之江の筑紫津神社が挙げられる程度で、大半が南面しているなかにあって異色の配置をとっている。今回の建て替えにあたり当神社創建に関わる史資料は見出されなかったが、拝殿解体にさいし虹梁の 1 材から「寛政六年」の墨書や、天明七年の年紀のある棟札が発見されて



図41 悉壇寺跡（2000-1）調査位置図

いる。拝殿四隅の雨落ち枠に用いられた瓦片に、江戸中期～後期にかけて高槻市内で操業していた瓦屋の屋号「天吉」銘が見出されたこととあわせて、当神社整備の一端がうかがわれる。

(鐘ヶ江)

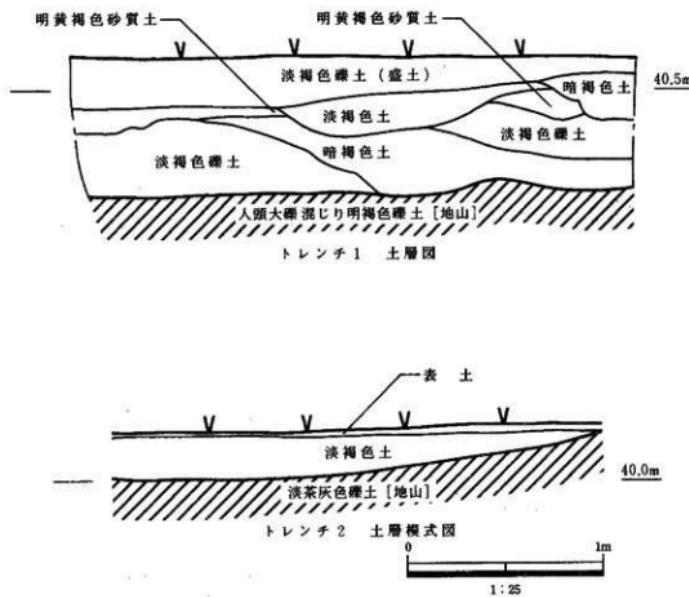


図42 慈瓊寺跡 (2000-1) 土層図

## X I . 高槻城跡

### 22. 高槻城跡（2000-1 地区）の調査

近世高槻城はJR高槻駅の南南東約1kmに位置する。明治7年に取り壊された後に都市化が進み、現在では地名や町割りに全体像がうかがえることができるのみである。

調査地は、高槻市出丸町992—18番地にあたり、小字名は「帶曲輪」と称する。今回の調査は個人住宅建設工事に先だって実施したものである。現状は宅地である。

調査は、重機で盛土等を除去したのち、人力で遺構・遺物の検出に努めた。層序は盛土(0.2m)、黄灰色土・灰色土ブロック(整地土:0.9m)、黄灰色砂礫土〔地山〕である。

今回の調査では、遺構・遺物は検出されなかった。

(木曾)



図43 高槻城跡(2000-1) 調査位置図

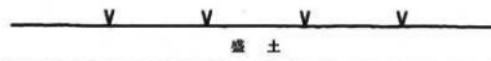
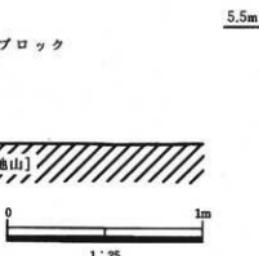


図44 高槻城跡(2000-1) 土層模式図



### 23. 高槻城跡（2000-2 地区）の調査

調査地は、高槻市出丸町992-18番地にあたり、小字名は「帯曲輪」と称する。現状は宅地である。今回の調査は個人住宅建設工事に先だって実施したものである。

調査は、届出地内に調査区を設定し、重機で盛土等を除去したのち、人力による掘削および精査をおこなった。層序は盛土（0.3 m）、黄灰色土・灰色土ブロック（整地土：1.0 m）、黄灰色砂礫土〔地山〕である。

今回の調査では、遺構・遺物は検出されなかつた。

（木曾）



図45 高槻城跡（2000-2）調査位置図

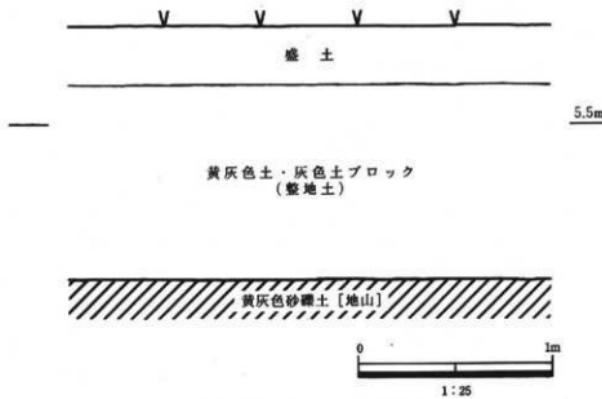


図46 高槻城跡（2000-2）土層模式図

#### 24. 高槻城跡（2000-3 地区）の調査

調査地は、高槻市野見町1251-15番地にあたり、小字名は「二之丸」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は近世高槻城の出丸東北部の堀に相当する位置にある。

調査区を届出地中央部に設定し、重機で盛土を除去した後、人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土(0.5m)、暗灰色土(0.1m)、青灰色粘土である。青灰色粘土には貝や自然木などが含まれており、約2mの深さまで掘削したが変化はなく、堀の埋土であると解される。また、暗灰色土は明治以降に堀が埋め立てられ水田化した際の耕作土とみられる。

今回の調査では、当該地が近世高槻城の堀にあたることを確認したものの、遺物は出土しなかった。



図47 高槻城跡（2000-3）調査位置図

(橋本)

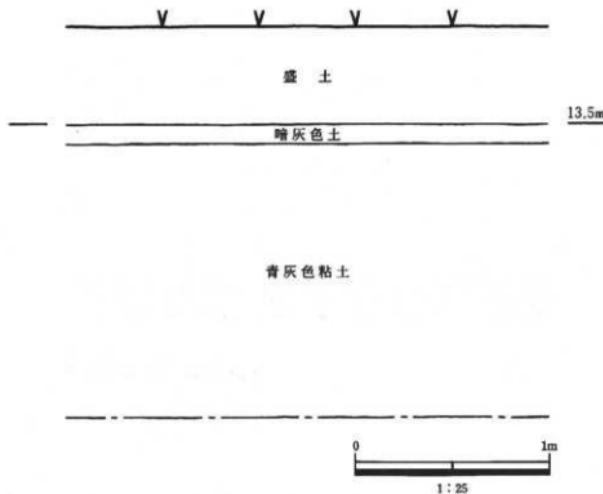


図48 高槻城跡（2000-3）土層模式図

## X II . 安満北遺跡

### 25. 安満北遺跡（2000—1 地区）の調査

安満中の町 472-1 番地の一部にあたり、小字名は「猪ノ口」と称する。安満北遺跡の東辺に位置し、現状は宅地である。このたび個人住宅建築工事に先立って、発掘調査を実施した。

調査は、届出地の西寄りにトレーナーを設定、重機で排土後、人力で掘削して精査した。

基本層序は、黄褐色土(盛土: 0.18 m)、暗灰色土(旧耕作土: 0.2 m)、淡橙色粘質土(床土: 0.05 m)、暗灰褐色土(整地土: 0.24 m)、暗茶褐色土(遺物包含層: 0.28 ~ 0.4 m)、暗黃灰色粘質土[地山]である。地山面は北端で標高約 12.9 m をはかり、北から南へ傾斜していく南側には茶褐色砂質土が 0.35 m 以上堆積していた。同層は均質で有機物・遺物等は全く検出されなかつた。

トレーナー西北側の暗黃灰色粘質土上面では、柱穴を 5 個検出した。直径 0.2 ~ 0.3 m、深さ 0.1 ~ 0.25 m をはかる。埋土は暗灰色粘質土ないし暗褐色土であり、遺物は出土しなかつた。その他、包含層から土器細片が若干出土したが時期を特定するに至らなかつた。

(鎌ヶ江)



図49 安満北遺跡（2000-1）調査位置図

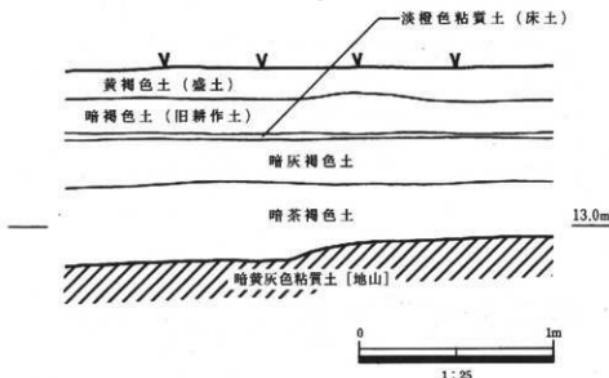


図50 安満北遺跡（2000-1）土層模式図

## 26. 安満北遺跡（2000-2 地区）の調査

安満中の町472-1番地の一部にあたり、小字名は「猪ノ口」と称する。2000-1地区の南側に隣接し、現状は宅地である。このたび個人住宅建築工事に先立って発掘調査を実施した。

調査は、届出地の西寄りに2000-1調査区と約3mを隔てて同規模のトレンチを設定、重機で排土した後、人力で掘削して精査を行った。

基本層序は、黄褐色土・黒褐色土・茶褐色土（盛土：0.2～0.3m）、耕作土（0.1～0.18m）、淡橙色粘質土（0.05m）、灰褐色土（0.2～0.3m）、暗灰色砂礫（0.1m）、茶褐色シルト（0.65m）、明茶色シルト〔地山〕となる。茶褐色シルトはトレンチ中央で急激に落ち込み、南側では暗灰色砂礫層（0.45m）、茶褐色粗砂（0.05～0.15m）、暗灰色砂礫（0.1～0.2m）となって明茶色シルトにつづく。地表面の標高は約12.5mをはかる。茶褐色シルト層中から摩滅した弥生土器の小片が出土したほか、明確な遺構は検出しなかった。

断面観察から、調査地は旧河道にあたる可能性が高い。土器片を包含していた茶褐色シルトは北側の2000-1地区南半部で検出した茶褐色砂質土に連続すると考えられ、北側調査区付近が河道の肩にあたるのであろう。河道の方向性はほぼ東西とみられるが、調査区が狹少なこともあり明確にできなかった。

（鐘ヶ江）



図51 安満北遺跡（2000-2）調査位置図

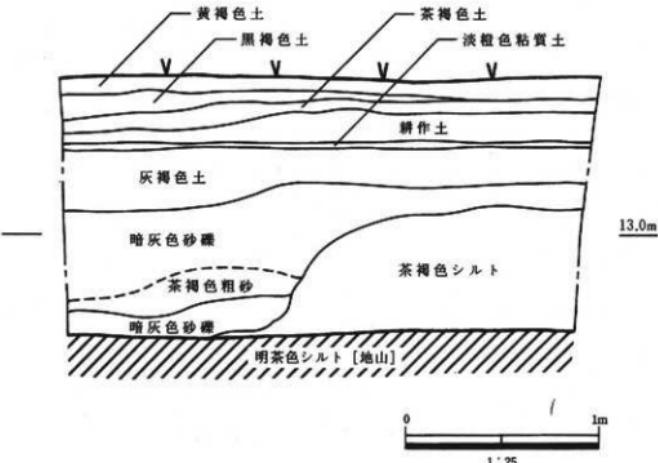


図52 安満北遺跡（2000-2）土層図

## 27. 安満北遺跡（2000—3 地区）の調査

調査地は高槻市安満中の町494—24番地にあたり、小字名は「井戸田」である。現状は宅地である。

今回の調査は個人住宅の建替えに先立つもので、重機で盛土等を除去したのち、人力によつて掘削して遺構・遺物の検出に努めた。層序は盛土（0.7 m）、旧耕作土・床土（0.2 m）、黄褐色礫〔地山〕である。地山は水平である。

調査の結果、遺構・遺物は検出されなかつた。

（宮崎）



図53 安満北遺跡（2000—3）調査位置図

盛 土

13.5m

旧耕作土・床土

黄褐色礫〔地山〕

0

1m

1 : 25

図54 安満北遺跡（2000—3）土層模式図

### X III. 今城塚古墳規模確認調査（第4次）

今城塚古墳は、6世紀前半に築造された二重の濠を有する前方後円墳であり、昭和33年2月に史跡指定を受けている。

平成9年度からは同古墳の保存整備に必要な古墳各部のデータを得るために、規模確認調査を実施している。第1次～第3次調査については後円部の遺存状況や内濠の幅・深さ等の形状把握と墳丘・内堤それぞれの基礎部分そして内外濠埋土の観察・状況把握をおもな目的とし、古墳の規模や形状に関するデータを得るとともに、城砦は永禄11(1568)年に摂津へ侵攻した織田信長による築城を想定できるようになった。

今回の調査は、平成12年度国庫補助事業（総額10,000,000円）として実施した今城塚古墳の第4次規模確認調査であり、前方部から内・外濠にかけての形状や遺存状況を把握するため、調査区を前方部西側に設定した。

#### 調査の結果

前方部では盛土と築造時の旧地表面（地山）を確認した。盛土は幅40cm、厚さ10cm前後の小土塊を旧地表に積み上げていた。土層断面を観察すると、土塊の向きは長辺が水平方向を示す一部を除けば、多くは墳丘側で東、内濠側で西もしくは東に向かって傾斜・褶曲した状況であった。盛土中には大小の亀裂が縦横にのび、地山との境にはすべり面を明瞭にとどめる。地山の標高は約24.8mである。

内濠では墳丘側と内堤側の斜面裾を確認した。底はほぼ平坦となり底約幅17m、深さは地表から3.6mをはかる。斜面角度は墳丘側22～25度、内堤側は22度である。層序は耕作土、崩壊土、堆積土となり、堆積土はさらに泥土層と砂質粘土層に大別できる。泥土層は厚さが約0.8mあり、円筒埴輪やドングリ・倒木などの植物遺体を含む。砂質粘土層は泥土層上に堆積し、各所に薄い砂層を挟む。すべり面直下からはヒシの種子が出土した。葺石は墳丘側と内堤側にあり、径0.2～0.8mの亜角礫や円礫を用いるが、いずれも原位置をとどめていなかった。

内堤では築造時の旧地表と盛土を確認した。旧地表は西端で標高27.3m、東端が26.9mと東へ向かってわずかに傾斜する。盛土は黄褐色粘土の拳大程度の土塊を約0.6～1mの厚さで積み上げており、墳丘盛土の状況とは異なる。

埴輪列は内堤西端部で6個体検出した。内堤の肩に平行して南北に並び、すべて円筒である。東側は擾乱を受けたために原位置を保つものではなく、掘形もすでに削平されていた。

外濠は濠底と斜面裾を確認した。底はほぼ水平で底幅約19m、深さ0.6mを測る。堀底には幅6m、地表面からの深さ約3mの溝があり、内堤に沿って南流後、東へ屈曲して内濠に達する。外濠には水を湛えていないものの、溝は一定量の水流があったことが埋土の状況から判明

している。

## 小 結

今回の第4次調査では今城塚古墳前方部の状況や内濠、内濠と外濠の規模について新たなデータを得ることができた。

前方部と内濠で古墳時代の地表を確認したことにより、西から東へと緩やかに傾斜する旧地形が具体的に追求でき、墳丘はすべて盛土によって築かれた可能性がより高まった。

前方部は、現況がいわゆる剣菱型となっているが、裾端部の位置や盛土・崩壊土の状況からすれば、本来は一直線にのびていたことが確認できた。さらに、これまでの調査結果による後円部東側の墳丘基底面と今回検出した前方部基底面の距離から、墳丘裾部分の全長190mが確定した。

内濠は底の標高が約21.5mで後円部側の標高21mとの比高は0.5mであり、現地表面での比高が約5mであるのに比して少ない。泥土層は低位にある後円部側で厚いため、水面高は前方部・後円部とも本来同じであり、内濠は途切れずに一巡していたと考えられる。また、1~3次調査でみられた人為的な埋め戻しはなされていない。

前方部と内濠で確認した盛土・埋土は地山との境で地滑り痕をとどめるうえ、盛土に大小多数の亀裂が縦横に延びていた。これは、調査区での盛土全体が崩壊しつつ東から西へ一気に移動する、地滑りの典型的な状況を示している。今回の大規模な地滑りの原因是地震による振動と考えられ、今城塚古墳築造以後にこの地滑りにみあう規模の地震としては、1596(文禄5)年9月5日に発生した伏見地震があげられる。

今城塚古墳の盛土が一瞬に崩落したのは築城時の大規模な改変などによって墳丘の劣化が進行したところに地震という大きなエネルギーが加わったためであろう。

## XIV. まとめ

今年度は鷦上郡衙跡で7件、その他周辺の11遺跡で20件、合計27件の調査を実施した。

鷦上郡衙跡では近年の傾向と同様に、遺跡外辺部分の小規模な調査が増え、郡衙や寺院に直接関わるような遺構・遺物を検出するには至っていない。今回の調査でも郡衙南方の56・57地区において山陽道の北側に近接する部分の調査を実施したが、遺構・遺物が希薄である状況に変化はない。郡衙の周辺では無遺構となる地域が存在することが確認されており、今回の調査から当該地区も同様であったことが指摘できよう。

富田台地上に展開する遺跡では中城遺跡と富田遺跡、教行寺跡の調査を実施した。いずれも弥生時代から中・近世の遺跡として知られ、一帯は中世以降の政治・経済の中心的な地域であった。しかしながら、はやくから台地上の開発がなされたことから、逆に各遺跡での具体的な遺構・遺物の検出は乏しくなっている。近年、遺跡の実態を探る手掛かりとなる遺物包含層が確認されたこともあり、今後これらの遺跡の具体像もしだいに明らかとなろう。

悉壇寺跡は、文献によって名称の明らかな寺院一つではあるが、具体的な規模や時期を示す資料は乏しかった。今回の調査では軒瓦や土器類などの遺物が出土しており、遺構は未検出ながらも、寺院の変遷などについてうかがい知る手掛かりを得ることができた。

このほか、今城塚古墳では第4次規模確認調査を実施し、前方部墳丘の状態や墳丘長、内外濠の状況についてのデータをあらたに得ることができたほか、地滑り跡という自然災害についても重要な資料を提供することになった。

(宮崎)

## 抄 錄

フリガナ	シマガミイセキダン
書名	山上遺跡群
副書名	
卷次	25
シリーズ名	高槻市文化財調査概要
シリーズ番号	27
編集者名	橋本久和 錦ヶ江一郎 宮崎康雄 高橋公一 木曾 広 清水良真
編集機関	高槻市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター
所在地	大阪府高槻市南平台五丁目21-1
発行年月日	2001年3月

フリガナ 所収遺跡名	シマガミイセキ 山上遺跡 6-A・B地区
フリガナ 所在地	オサカノカワヨシ オサカノカワヨシ 大阪府高槻市清福寺町879
コード	北緯 東経 調査期間 調査面積 調査原因
市町村 遺跡番号	34° 51' 06" 135° 36' 21" 20000718 27207 39 ~ 20000728
所収遺跡名種別	時代 主な遺跡 主な遺物 特記事項
山上都街 官衙	奈良・平安

フリガナ 所収遺跡名	シマガミイセキ 山上遺跡 56-L地区
フリガナ 所在地	オサカノカワヨシ カニシヨウイチヨウ 大阪府高槻市川西町一丁目1015-8
コード	北緯 東経 調査期間 調査面積 調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 47" 135° 36' 22" 20000130 27207 39 ~ 20000131
所収遺跡名種別	時代 主な遺跡 主な遺物 特記事項
山上都街 官衙	奈良・平安

フリガナ 所収遺跡名	シマガミイセキ 山上遺跡 56-P地区
フリガナ 所在地	オサカノカワヨシ カニシヨウイチヨウ 大阪府高槻市川西町一丁目1015-10
コード	北緯 東経 調査期間 調査面積 調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 46" 135° 36' 22" 20000803 27207 39 ~ 20000804
所収遺跡名種別	時代 主な遺跡 主な遺物 特記事項
山上都街 官衙	奈良・平安

フリガナ 所収遺跡名	河原辻 島上郡街 57-A地区				
フリガナ 所在 地	村井田 河原辻 岡崎町イチケツ 大阪府高槻市川西町一丁目1010-4				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 49"	135° 36' 22"	20001024 ~ 20001027	9.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時代	主な 遺 跡	主な 遺 物	特記事項	
島上郡街 官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名	河原辻 島上郡街 57-M地区				
フリガナ 所在 地	村井田 河原辻 岡崎町イチケツ 大阪府高槻市川西町一丁目1015-9				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 46"	135° 36' 22"	20000801	9.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時代	主な 遺 跡	主な 遺 物	特記事項	
島上郡街 官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名	河原辻 島上郡街 74-B地区				
フリガナ 所在 地	村井田 河原辻 伊賀山手 大阪府高槻市郡家新町156-33				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 42"	135° 36' 12"	20000905 ~ 20000906	10.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時代	主な 遺 跡	主な 遺 物	特記事項	
島上郡街 官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名	河原辻 島上郡街 74-D地区				
フリガナ 所在 地	村井田 河原辻 今城町 大阪府高槻市今城町164-49				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 38"	135° 36' 15"	20001128 ~ 20001130	12.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時代	主な 遺 跡	主な 遺 物	特記事項	
島上郡街 官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名	ハセ 土室（2000-1）				
フリガナ 所在 地	オオサカ カワラシ シミハセロウチヨウ 大阪府高槻市上土室六丁目131-45, 126-2				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 49' 33"	135° 35' 25"	20000817 ~ 20000822	9.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 5					
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項
土 室	集落	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	チュウジョウ 中城（2000-1）				
フリガナ 所在 地	オオサカ カワラシ シヨウワゲイチヨウニチヨウ 大阪府高槻市昭和台町二丁目144-2				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 49' 36"	135° 35' 25"	20000918 ~ 20000922	9.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 47					
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項
中 城	集落	中世			

フリガナ 所収遺跡名	チュウジョウ 中城（2000-2）				
フリガナ 所在 地	オオサカ カワラシ シヨウワゲイチヨウニチヨウ 大阪府高槻市昭和台町二丁目144-1				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 48"	135° 35' 38"	20001116 ~ 20001117	9.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 47					
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項
中 城	集落	中世			

フリガナ 所収遺跡名	ヒムジツガツン 氷室塚古墳（2000-1）				
フリガナ 所在 地	オオサカ カワラシ ヒムジツガツン 大阪府高槻市氷室町二丁目571-26				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 48"	135° 35' 38"	20000509 ~ 20000510	9.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 17					
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項
氷室塚	古墳	古 墳			

フリガナ 所収遺跡名	ヒムラヅタコツク 水室塚古墳（2000-2）				
フリガナ 所 在 地	オオサカタカツキヒムラヅタコツク 大阪府高槻市水室町二丁目571-31				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 46"	135° 35' 37"	20000509 ~ 20000510	9.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項	
水室塚 古城	古 墳				

フリガナ 所収遺跡名	シダ 富田（2000-1）				
フリガナ 所 在 地	オオサカタカツキシンドウタヨウチウ 大阪府高槻市富田町四丁目2488				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 49' 35"	135° 35' 47"	20000615 ~ 20000616	6.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項	
富田 集落	中世				

フリガナ 所収遺跡名	キヨウザカツク 教行寺跡（2000-1）				
フリガナ 所 在 地	オオサカタカツキシンドウタヨウチウ 大阪府高槻市富田町六丁目2685の一部				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 31"	135° 35' 54"	20000627	9.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項	
教行寺 寺院	中世				

フリガナ 所収遺跡名	ミツノイワタケ 宮之川原（2000-1）				
フリガナ 所 在 地	オオサカタカツキミツノイワタケ 大阪府高槻市宮之川原五丁目505-25				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 30"	135° 35' 54"	20001201 ~ 20001206	9.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項	
宮之川原 集落	古 墳				

フリガナ 所収遺跡名	宮之川原（2000-2）				
フリガナ 所在 地	大阪府高槻市宮之川原五丁目505-23				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 34"	135° 35' 54"	20000626	9.0m <sup>2</sup>	個人住宅建設工事
27207 57					
所収遺跡名 種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項	
宮之川原 集落	古墳				

フリガナ 所収遺跡名	宮之川原（2000-3）				
フリガナ 所在 地	大阪府高槻市宮之川原五丁目512-4				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 51' 07"	135° 36' 05"	20000630	4.0m <sup>2</sup>	個人住宅建設工事
27207 57					
所収遺跡名 種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項	
宮之川原 集落	古墳				

フリガナ 所収遺跡名	宮之川原（2000-4）				
フリガナ 所在 地	大阪府高槻市宮之川原元町889-2				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 51' 30"	135° 36' 03"	20000807 ~ 20000811	9.0m <sup>2</sup>	個人住宅建設工事
27207 57					
所収遺跡名 種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項	
宮之川原 集落	古墳				

フリガナ 所収遺跡名	天神山（2000-1）				
フリガナ 所在 地	大阪府高槻市天神町二丁目932-35の一部				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 51' 26"	135° 36' 06"	20000908 ~ 20000914	12.0m <sup>2</sup>	個人住宅建設工事
27207 72					
所収遺跡名 種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項	
天神山 集落	弥生				

フリガナ 所収遺跡名	神峰山寺跡（2000-1）				
フリガナ 所在地	大阪府高槻市大字原3302				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 51' 44"	135° 36' 05"	20001002 ~ 20001019	9.0m <sup>2</sup>	庫裏付寺院 建設工事
所収遺跡名	種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
神峰山寺	寺院	平安			

フリガナ 所収遺跡名	悉曇寺跡（2000-1）				
フリガナ 所在地	大阪府高槻市成合北の町1301				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 35"	135° 37' 29"	20000712 ~ 20000714	53.7m <sup>2</sup>	社殿建 替工事
所収遺跡名	種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
悉曇寺	寺院	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	高槻城（2000-1）				
フリガナ 所在地	大阪府高槻市出丸町992-18の一部				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 26"	135° 37' 17"	20001220	4.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
高槻城	城跡	中世・近世			

フリガナ 所収遺跡名	高槻城（2000-2）				
フリガナ 所在地	大阪府高槻市出丸町992-18の一部				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 52' 26"	135° 37' 17"	20001221 ~ 20001222	6.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
高槻城	城跡	中世・近世			

フリガナ 所収遺跡名	高槻城（2000-3）				
フリガナ 所 在 地	大阪府高槻市野見町1251-15				
コード	北 緯	東 經	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
市町村 遺跡番号	34° 51' 44"	135° 36' 05"	20000907	9.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 85					
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項
高槻城	城跡	中世・近世			

フリガナ 所収遺跡名	安満北（2000-1）				
フリガナ 所 在 地	大阪府高槻市安満中の町472-1の一部				
コード	北 緯	東 經	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
市町村 遺跡番号	34° 52' 10"	135° 39' 49"	20000516 ~ 20000519	9.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 110					
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項
安満北	集落	弥 生			

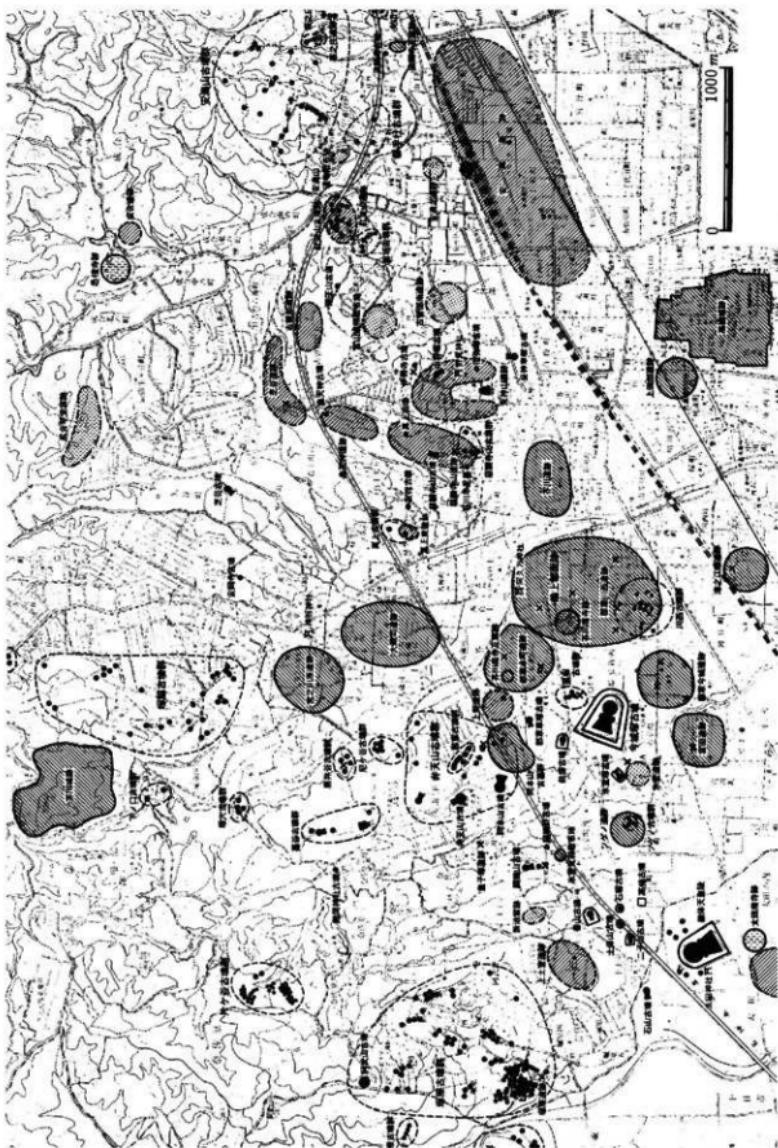
フリガナ 所収遺跡名	安満北（2000-2）				
フリガナ 所 在 地	大阪府高槻市安満中の町472-1の一部				
コード	北 緯	東 經	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
市町村 遺跡番号	34° 52' 10"	135° 39' 49"	20000516 ~ 20000519	9.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 110					
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項
安満北	集落	弥 生			

フリガナ 所収遺跡名	安満北（2000-3）				
フリガナ 所 在 地	大阪府高槻市安満中の町494-24				
コード	北 緯	東 經	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
市町村 遺跡番号	34° 52' 00"	135° 39' 42"	20000706 ~ 20000714	8.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 110					
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項
安満北	集落	弥 生			

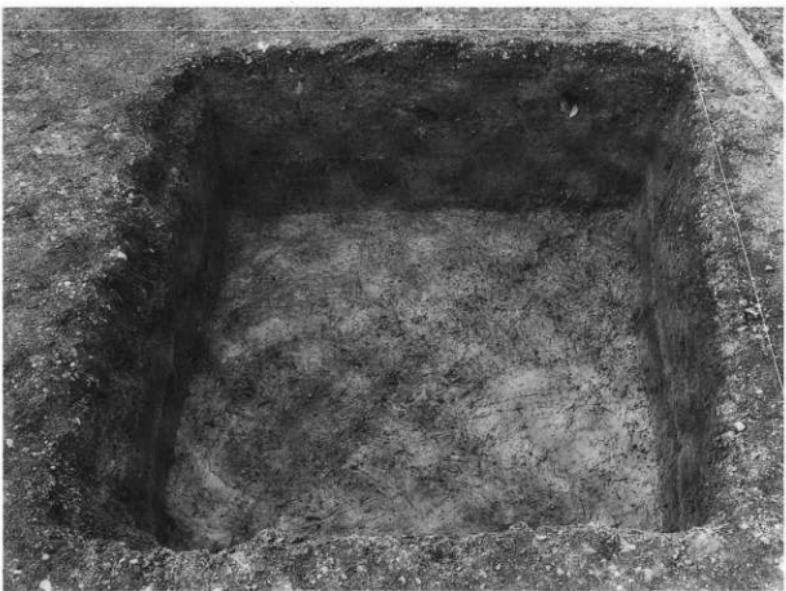


# 図 版

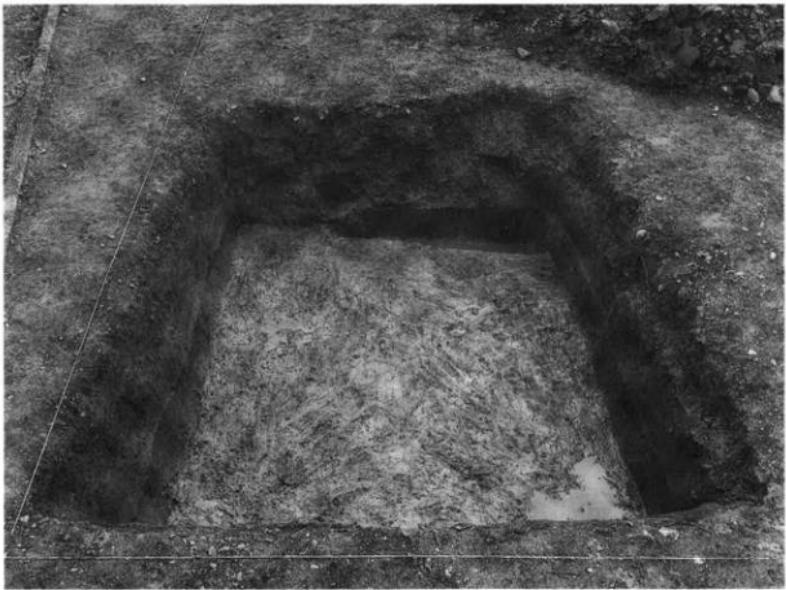




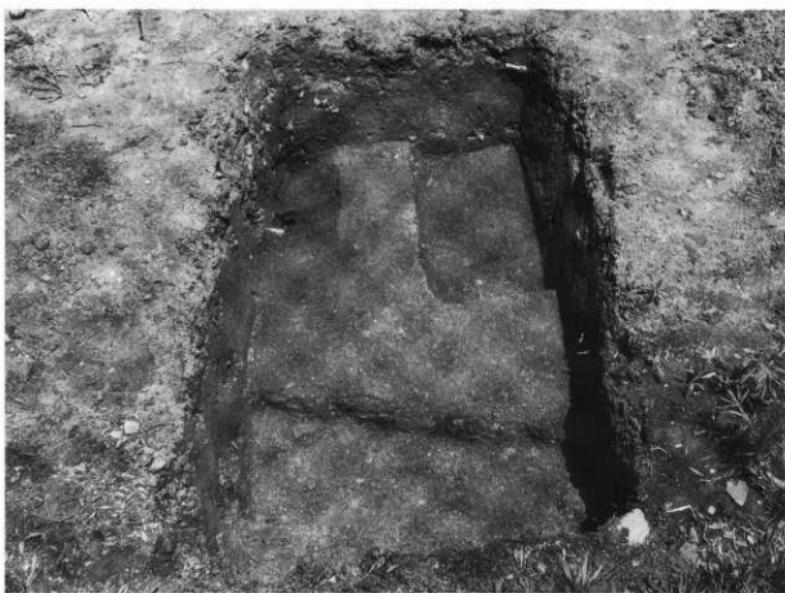
島上郡街跡とその周辺



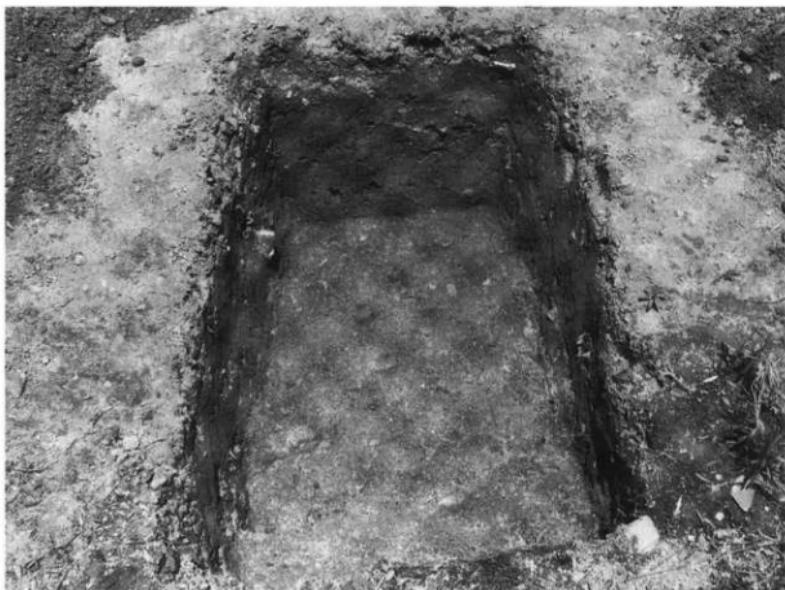
a. 鳥上郡衙跡（56-L地区）全景（北側から）



b. 鳥上郡衙跡（56-L地区）全景（南側から）



a. 富田遺跡（2000-1地区）溝（南側から）



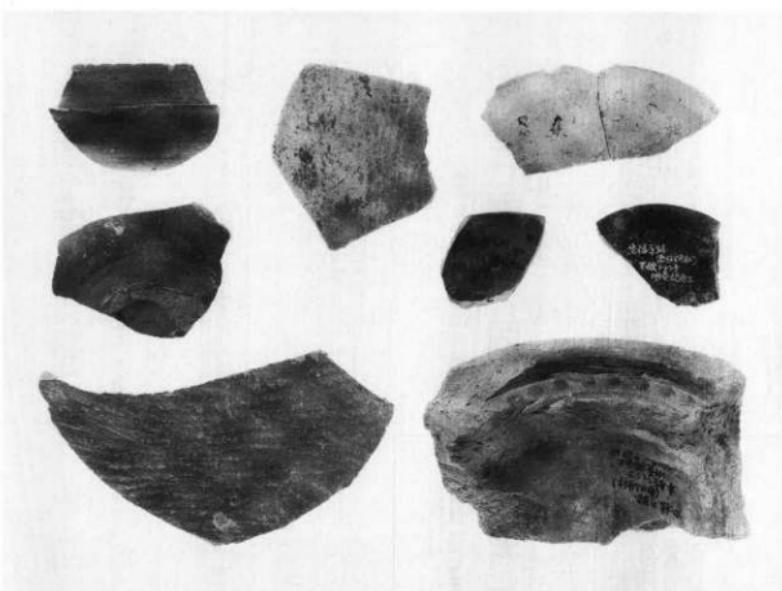
b. 富田遺跡（2000-1地区）完掘後の状況（南側から）



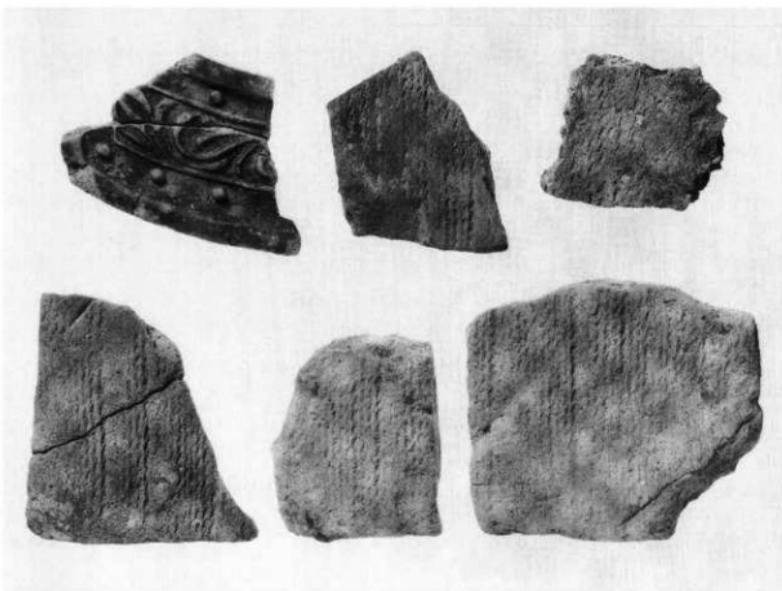
a. 悅壇寺跡（2000-1地区）トレンチ1西端部（南側から）



b. 悅壇寺跡（2000-1地区）トレンチ1東半部（西側から）



a. 息塙寺跡（2000-1地区）出土遺物



b. 息塙寺跡（2000-1地区）出土遺物



a. 安満北遺跡（2000-1地区）柱穴検出状況



b. 安満北遺跡（2000-1地区）完掘後の状況



a. 今城塚古墳 全景（西側から）



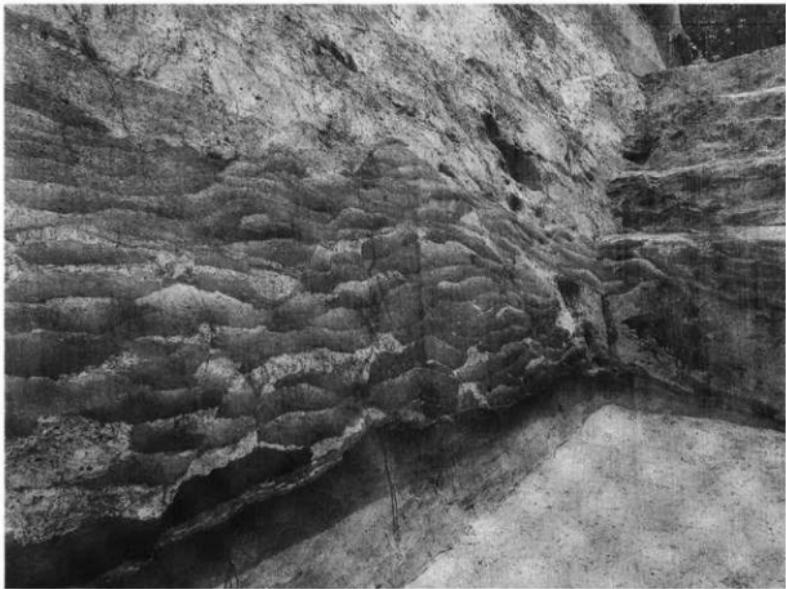
a. 今城塚古墳 内濠（東側から）



b. 今城塚古墳 内濠東半部（南西側から）



a. 今城塚古墳 前方部盛土状況



b. 今城塚古墳 前方部の盛土とすべり面



a. 今城塚古墳 内堤（南側から）



b. 今城塚古墳 墓輪列（東側から）

高槻市文化財調査概要 X X VII

鷺上遺跡群 25

平成 13 年 3 月 27 日

発 行 高 槻 市 教 育 委 員 会  
文化財課 埋蔵文化財調査センター  
高槻市南平台五丁目21番1号

印 刷 株式会社 邦 文 社  
大阪市東淀川区大桐1丁目4番9号